

授 業 科 目 名	保育原理	教 員 名	山下 愛実	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒 業 要 件	保育士	必修
科 目 番 号	SEN104	配当年次	1 年前期		こども音楽療育士	
単 位 数	2 単位				小幼コース	
単 位 数	2 単位				幼保コース	
科 目						
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	誕生から就学前の乳幼児の保育についての基本的な見方や考え方、保育の理論を学び理解する。 また保育所における保育の実際や多様な保育ニーズについて理解する。さらに家庭・地域との連携 や相談・援助の基本的事項について理解する。					
到 達 目 標	(1)保育の意義及び目的について理解する。 (2)保育に関する法令及び制度について理解する。 (3)保育所保育指針における保育の基本について理解する。 (4)保育の思想と歴史的変遷について理解する。 (5)保育の現状と課題について考察する。					
授 業 の 概 要	その時代の生活課題と結びつきながら子どもの最善の利益を保障する場として発展してきた保育 現場における保育のいとなみ。保育にかかわる基本的な知識の修得に加え、子どもの思いやその子 らしさ、いま育ちつつあることを受容的に理解しようとする子ども理解のまなざしを養うことを目 指す。具体的には、子どもの育ちを取り巻く環境（家庭・社会）や子育て家庭の生活、家族の形がど のように変化してきたのか捉え、保育の社会的役割と責任について考える。また、保育の目標を理 解し、どのように保育を行っていくのか、子どもの育ちを支える環境のあり方を考察する。さらに、 諸外国の保育の現状や保育の歴史にみる人びとの子どもへの思いやまなざしを理解することを通し て、保育を捉える視点を学ぶとともに、日本の保育の現状と課題を検討する。授業形態は講義とす る。 アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レ ポートなどを取り入れる。					
ディプロマ・ポ リシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教 科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：オリエンテーション・保育の意義・目的 保育とは何か考えるとともに、幼児教育・保育の法的位置づけを知り、保育の意義および目的、 内容を理解する。（目標(1)） 第2回：保育に関する法令及び制度 子ども・子育て家庭を取り巻く環境の変化および変化に伴う課題を捉え、保育施設の役割につ いて学ぶ。（目標(1)） 子ども・子育て支援新制度の仕組みや取組で目指していることについて学ぶ。（目標(2)） 第3回～第5回：保育の実施体系および多様な保育施設 保育施設の設置及び運営の基準や、支給認定、教育・保育給付の仕組みについて学ぶ。（目標(2)） 保育所、幼稚園、認定こども園の目的や対象児童、保育内容等について、相違点と共通点に着 目して調べ、グループ検討を行う。それらを踏まえて、幼児教育・保育施設の現状の理解および、 多様な保育施設を理解する。（目標(2)） 第6回：第1回～第5回までの総括（中間テスト）、保育の現状と課題 こどもや保育に関する法令及び制度、種々の保育施設についての中間テストを実施し、内容理 解の定着を図る。また、現代の子どもの生活環境や子どもの保護者の状況を踏まえ、保育におけ る課題とその展望について学ぶ。（目標(5)）					

	第7回：保育方法 生きる力の基礎を培うためにどのような目標のもと、保育がなされていくのかについて学ぶ。(目標(3)) 保育の目的や目標を達成するためにどのような内容をどのように(方法)展開していくのかについて学ぶ。(目標(3)) 第8回：保育の環境 保育における「環境」や「環境による保育」とは何か、また環境による保育のあり方について学ぶ。(目標(3)) 第9回：保育における子どもの遊び 保育現場における子どもの遊びをどのように捉えていくのか、子どもの視点に立ち、子どもの遊びを捉える。また、「遊びを通した総合的な指導」の意味を考え、乳幼児期の遊びの特徴や生活や遊びを通しての育ちについて学ぶ。(目標(3)) 第10回：保育所における保育 保育所保育指針とは何か、また保育所における養護や子どもの最善の利益を考慮した保育について学ぶ。(目標(3)) 第11回：子どもの発達の特徴 乳児、1歳以上3歳未満児、3歳以上児それぞれの発達の特徴を理解し、発達の連続性を踏まえた保育について学ぶ。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとした保幼小接続について考える。(目標(3)) 第12回・第13回：保育のあゆみ(諸外国) 保育の歴史を学ぶ意味を知り、諸外国においてその考えがどのような時代的・社会的背景に支えられて生じたものか、また現在の保育の考え方にどのような影響を及ぼしているのかについて学ぶ。(目標(4)) 第14回：保育のあゆみ(日本) 諸外国のどのような保育の考え方や流れが現在の保育所や幼稚園の保育に影響を及ぼしているのかなど日本の保育の歴史や保育制度の変遷について学ぶ。(目標(4)) 第15回：保育所における保育 子どもの最善の利益を考慮した保育について学ぶ。(目標(3)) 子ども一人ひとりの尊厳と権利の観点から保育を捉え、現状と課題について考察する。(目標(5)) 定期試験
学 生 対 する 評 価	受講姿勢(グループワーク・発表等)20%、ワークシート・提出物10%、期末試験60%、中間試験10% なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時 間 外 の 学 習 に つ い て	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) ・学習した内容についてプリントで再確認しておく。また、これまで配布したプリントを再読し、理解を深め、不明点は質問する。 ・講義を受けて、レポート課題があるときには必ず次の授業で提出すること。 ・講義で使った資料やノートのファイル管理を徹底すること。
テ キ ス ト	汐見稔幸・大豆生田啓友監修(2019)『アクティバート保育学01 保育原理』ミネルヴァ書房
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館 なお適宜資料を配付する。

担当者からの メ ッ セ ー ジ	積極的に授業に参加する中で、子どもの育ちの豊かさや子どもの育ちを支える保育の面白さに触れ、子どもへの関心や保育の理解が深まることを期待します。
オフィスアワー	授業の前後の時間（メール等でアポイントを取る）